

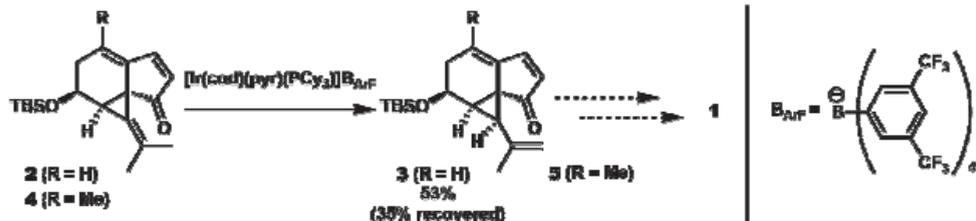
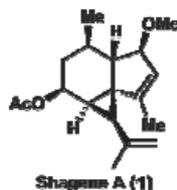
# 26S-am06S

## Shagene A の全合成研究

○平家 崇吉<sup>1</sup>, 塚野 千尋<sup>1</sup>, 竹本 佳司<sup>1</sup> (<sup>1</sup>京大院薬)

【目的】 Shagene A (**1**)はスコシア海に生息する軟サンゴより Baker らによって単離・構造決定された化合物である<sup>1)</sup>。本化合物は 3,5,6 員環が縮環した三環性骨格を有しており、シクロプロパン環のかさ高い置換基がすべて同じ面に位置する非常に興味深い構造である。生物活性については、リーシュマニア症の原因となる原虫 *Leishmania Donovanii* に対する強い毒性が報告されている。我々はその生物活性に加えて本化合物のシクロプロパン環の特異な置換パターンに興味を持ち、その全合成研究に着手した。

【方法・結果】 第 66 回日本薬学会近畿支部大会において、六員環上にメチル基を持たないモデル基質 **2** に対し、非配位性の対アニオンを有する Crabtree 型触媒を用いることで望みの立体選択性で目的の異性化体 **3** を与えることを報告した。そこで、**1** の全合成を目指し引き続き六員環上にメチル基を有する基質 **4** の合成と本反応の適用を検討した。本発表ではさらに、異性化と続く酸化的 1,3-転位、全合成に向けた変換について発表する。



1) B. J. Baker *et al.* *Org. Lett.* 2014, 16, 2630.